

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。

はいさい

《沖縄協同病院医師研修理念》

- 基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。



新年のご挨拶

謹んで新春のお慶びを申し上げます。地域の皆様、組合員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと存じます。また、日頃より当院の運営に対し多大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、当院は「紹介受診重点医療機関」の取得を見据え、沖縄医療生協の法人内で医療機能の役割分担を明確にする一年となりました。具体的には、内科の慢性疾患管理を「にじクリニック」、また「とよみ生協病院」では、紹介状なしで気軽に受診できる内科・小児科・脳神経外科・整形外科外来を開設しました。とよみ生協病院とは回復期リハビリ病棟や地域包括ケア病棟、外来リハビリなどの連携がスムーズになりました。これにより、当院は急性期医療や救急、専門的な紹介外来へより一層注力できる体制を整え、地域の急性期病院としての責務を果たして行く所存です。

本年も、「人権と命の尊厳を守る無差別平等の医療」の理念を实践するため、断らない救急、患者さんの生活背景までを見つめる医療の提供に全力を尽くします。職員一丸となって、誰もが安心して住み続けられるまちづくりと、信頼される病院づくりに邁進いたしますので、本年も変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

皆様のご健勝とご多幸を心より祈念し、年頭の挨拶といたします。

い どもり こう じ
伊 泊 広 二

沖縄協同病院
院長



**か がん
花眼の人となれ**

「花眼」とは「老眼」を意味しますが、転じて、花の美しさやものの本質を見極める境地を感じる視点のこと。

2026 和

画・内科医 上原 和博

**病院の
活動状況**
 <2025年11月度>

- ・外来一日平均患者数：220人（前年同月比 -66人）
- ・入院一日平均患者数：250人（前年同月比 +2人）
- ・組合員利用分量（率）：64.4%（前年同月比 +4.5%）

大腸がんについて

 227 外科より
 いちばん


大腸がんは日本人にも非常に多いがんの一つで、食生活や生活習慣の変化により、近年では若い方やこれまで大きな病気をしたことがない健康な方に発見されるケースも珍しくありません。初期には自覚症状がほとんどないため、多くの方が気づかないうちに進行してしまい、肝臓など離れた臓器に転移した状態で見つかることもあります。大腸がんを放置すると、腸がふさがって便やガスが出なくなる「腸閉塞」を引き起こし、激しい腹痛やおう吐をとらなると緊急手術が必要になることがあります。

大腸がんは、早期の段階で発見し治療すれば高い確率で治癒が期待できますが、進行した状態では体への負担や治療期間が長くなるため、できるだけ早く見つけることが重要です。症状がないからといって安心せず、40歳を過ぎたら一度は大腸内視鏡（大腸カメラ）検査を受けてみましょう。特に便潜血検査で異常が出た場合や、家族に大腸がんの経験者がいる方、日頃から便秘異常や下血がある方は積極的な受診がすすめられます。

大腸内視鏡検査では、小さなポリープや初期がんも発見でき、その場で切除できる場合もあります。大腸がんは早期発見・早期治療が力ギとなりますので、ぜひ定期的な検査を受け、安心して健康な毎を送りましょう。

外科専攻医 野田 峰丘

子供のスマホ



医局 小児科医
あまづみ りょうこ
雨積 涼子

スマホは普通の生活でなくてはならないものになっています。スマホは便利ですが、スマホにまつわるトラブルが増えていて直接会えなくてもオンラインで会えたり、SNSでつながったり便利な社会になったのに孤独を感じる人が増えているという報告もあります。歩けないような乳幼児でもスマホを使い、スクリーンタイムは大人も子ども1日4-5時間、朝起きてから寝るまでずっとスマホがそばにある生活を送っています。スマホの長時間使用が学力低下やメンタル不調に関係していると言われ、睡眠時間や運動する時間、家族や仲間と過ごす時間がどんどん短くなっています。

小さいときからスマホを使用するほど、スマホ依存の危険も高まります。子どもとスマホの関わりについて、困ったり悩んでいる人が増えています。こどもの我慢強さには個人差があり、スマホやアプリは変化を続け、スマホの使用を個人の努力のみでコントロールすることは難しいです。

スマホを使い始めるとき、子どもと一緒にルールを考えること、スマホを使っていない時間を大切にすること、大人も子どもも仕事や勉強以外でのスクリーンタイムは1日2時間を目安にすること、今できることから始め、スマホとの付き合い方を私たちひとりひとりが考えていけるといいなと思っています。

NAHAマラソン救護班に参加して

私は初期研修医二年目として、今年のNAHAマラソンに救護班として参加しました。

大会の序盤は、熱中症予防のため沿道で走者の方々に「この一杯が患者をきっと減らす」という気持ちで水をお渡しし、無事に完走していただけるよう声をかけながらサポートしました。やがて日差しが強い時間帯になり、気分不良や筋痙攣のため救護所へ運ばれてくる方が増えてきました。医療班としてバイタルサインの確認や冷却、必要な処置を行い、苦痛の表情が次第に和らいでいく姿を見るたび、少しでも力になったことを嬉しく思いました。

今回の経験を通して、予防と早期対応の重要性を再確認すると共に、地域のみなさまと一緒に大会を支えられたことに大きなやりがいを感じました。

医局 青木 亮



こんにちは赤ちゃん

当院で出生したBabyの写真です



奥原悠月ちゃん



桃原蒼空ちゃん

Instagramやってます

@okikyo.sanka



私の部署のいいところ

栄養管理室は給食提供の他に、入院患者さんの栄養管理、栄養サポートチーム(NST)、入院・外来栄養指導、食物アレルギー負荷試験等の業務を行っています。病態に合わせた治療食も提供しており、患者さんの栄養状態や疾患、摂食能力等を判断し、医師の指示のもとで提供しています。また様々な理由から十分に食事がとれない患者さんに対して、各個人に合わせた栄養管理を実施しています。

お盆や正月には行事食を取り入れ、季節感を少しでも楽しんでいただけるよう努めています。

美味しく安全な食事を提供するため、これからも患者さんの声を大切に食事作りと栄養管理を目指していきます。

栄養管理室



管理栄養士 吉田 真紀

委員会活動報告 44!災害対策委員会

災害対策委員会は月1回、DMAT委員会と合同で開催しております。

災害対策委員会ではDMAT委員会と同様、院外での訓練の調整や、病院内における災害マニュアルの作成と改定、病院で年に1回開催している大規模災害訓練を手掛けております。地震時の病院対応のマニュアルや、津波警報時の行動指針など、災害時における病院の事業継続計画などを立案運用しております。

事務局長(8階病棟) 與那嶺 雄

まじゅん! きれいな真珠にもトゲがある?

真珠道(まだまみち)・那覇市首里金城町



観光客でにぎわう首里城裏の真珠道入口

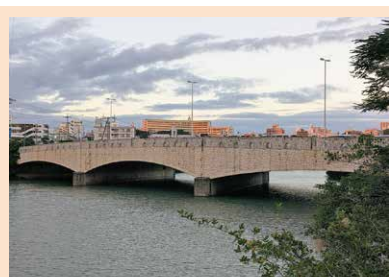
はじめまして!さんぽ人の宮城じゅんと申します。今回から、路地裏で見つけた歴史の宝物をご紹介します。「まじゅん!スー道」へ!(ご一緒に!路地裏へ!)

守礼の門近くの路地に「真珠道」と書かれた小さな柱がある。近づかないと見落としそうなサイズだが、ここが金城町石畳への入口だと観光客もよく知っている。

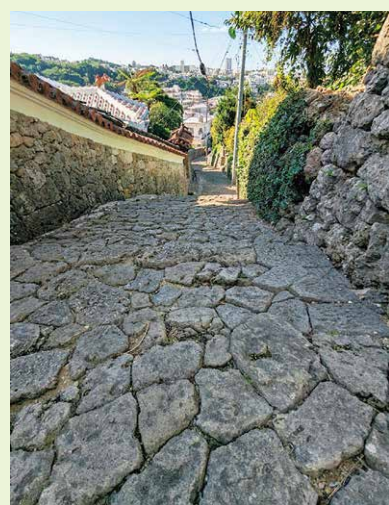
「真珠のように美しい」と名付けられたこの道は琉球王朝時代に造られた舗装道路である。島添坂(しまいびら)を下っていくと石畳入口へと出る。パズルのように敷石を組み合わせたその道の美しさは何度来てもうっとりする。いにしへの王たちもきらびやかな行列でこの道を通り、別邸「識名園」へと向かった。この道は識名までの道と思われがちだが、実はそのまま国場を抜け、豊見城を通り、那覇港まで続く。

「真珠道」を通すために国場川へ架けられた橋は「真玉橋」(まだんばし)と名付けられた。

15世紀ごろの琉球は、中国・明との貿易で繁栄していたが、行き交う交易船の積荷を狙う海賊「倭寇」(わこう)に悩まされていた。そこで整備されたのが「真珠道」である。この道は那覇港が倭寇に襲われたとき、兵士がいち早く駆け付けるための軍用道路であった。実際、1609年、那覇港へ島津藩が攻めてきたときも素早く兵を整え、これを撃退している。



真玉橋は今でも交通の要所である



石畳は何度訪れても心がやすらぐ

琉球王朝の栄華を極めたモザイクのように美しい石畳は、実はキナ臭い戦いの道でもあった。きれいな真珠にもトゲがある。

さんぽ人 みやぎじゅん